

白羽小学校 6年2組 地元の食材でカレー作り



▲レトルトカレーの材料となる野菜をもつ
白羽小学校6年2組の児童
11月中旬に完成予定

独自のカレーを製造・販売

白羽小学校の6年2組が地元産の食材を使ったレトルト食品「地域活性化カレー」を製造している。この取り組みは、総合的な学習の時間にクラスで独自に実施しているもの。児童は担任の山下賢吾教諭によるサポートの下、製品化や販売の企画、作業などを担当する。山下教諭は「モノ作りをする中で、児童に『本物の勉強』をしてもらいたかったんです」と授業の意図を明かす。

「生きる力」が身に付く学習

児童はレトルトカレーを製造する上で、日頃の授業で学んだ知識を生かしている。それはブレンドするカレーの比率や税金の計算、パッケージのデザインなど多岐にわたる。

今回、製造に必要な資金65万円を集めるため、インターネットを使って支援者からお金を集めるクラウドファンディングを児童が主体になって活用した。タブレット端末を使用して出資を募るためのページや文章も児童自ら



▲10月21日に実施した試食会で、独自にブレンドしたカレーの味をチェックする児童

が作成。本年7月に開始し、9月末には約2000人の支援者から必要額の72万3千円を集めた。この取り組みで児童は「社会に出たらこんな風に仕事をするんだ」と一足早く社会を疑似体験することができた。山下教諭は話す。

「浜の子発表会」で活動を発表

同校では、総合的な学習の時間に学んだことを披露する発表会が12月4日に開かれる。6年2組の児童は、今回の取り組みを聞く人がわかりやすいよう工夫して発表したと意気込む。

このような貴重な体験をしている児童は国内でも多くないだろう。今後もさまざまな取り組みに励んでほしい。